



知事 コラム

アイデアに壁はいらない

11月2日に埼玉大学の学生から政策提言を受けました。今年で6回目になります。

これまでもなかなか優れた提案をいただいております。例えば公園のジョギングコースなどに、消費カロリーが分かる看板を一定の距離ごとに設置するというものがありました。これは良いアイデアだったので、スポンサー企業を募って看板に企業名などを入れる形で、県内18の公園で実施しました。

今回印象に残った提案の一つが、生活圏内での歩行者の死亡事故が多いという事実に着目した交通安全対策です。生活道路を走行する車のスピードを落とさせるために、走行時に振動を感じる突起物を設置したり、ポールなどで狭い箇所を設けたりするという大変優れたアイデアです。

その他、細川紙の手漉き和紙技術がユネスコの

無形文化遺産に登録されたことに着目して、公立中学校の卒業証書に和紙を使ってはどうかという提案もありました。県内の公立中学校の卒業証書が和紙であれば、和紙需要の増加につながるだけでなく、子供たちが和紙の素晴らしさを認識することにもつながるという大変新鮮な提案でした。

また、11月3日にはロボットアイデアコンテストの表彰式がウェスタ川越で行われました。小学生から一般の部まで2千件を超える提案があり、小学1年生の「歯磨きをしてくれるロボット」が、優秀作品に与えられる「コバトン賞」に輝きました。これは、ロボットを口の中に入れておけば10分間で歯磨きが完了するというものです。なかなか考えつかないアイデアです。

今後は、生活を便利にする、あるいは高齢者の不自由なところをカバーするようなロボットの需

要が世界中で大きくなっていく気がします。こうした分野を発展させていけば、日本に新しい産業が大きく芽生えてくるのではないかと思います。

私たちの世界は勝手に「壁」をつくっています。が、学生や子供たちは固定観念にとらわれることなく、純粋に「もっと便利に」とか「より安全に」といった視点で素晴らしいアイデアを生み出します。その予想外のアイデアには本当に驚かされます。まさに「壁を取り払う」ということがアイデアのスタートではないかと思います。

埼玉県知事 上田 清司

